

令和3年度第2回小田原市環境審議会  
基本計画策定検討部会  
議事概要

- 1 **日時** 令和3年12月22日（水）10：00～12：15
- 2 **場所** 小田原市役所 6階 601会議室
- 3 **出席部会員**（3名）  
奥部会長、杉山部会員、森部会員
- 4 **オブザーバー委員**（2名）  
下田委員、福澤委員
- 5 **欠席部会員**（2名）  
高橋部会員、人見部会員
- 6 **出席職員**（4名）  
環境部副部長、環境政策課長、環境政策課環境政策係長、環境政策課係員1名
- 7 **傍聴者**  
なし
- 8 **協議の概要**

**ア 小田原市環境基本計画の策定について**

・新たな「望ましい環境像」について（資料1）

資料1に基づいて説明し、以下のとおり協議を行った。

部会員	再度提示された案はどれも良いと思う。 個人的にはシンプルなものが良いと思うので、再3にし、「都市」を取って「森里川海の恵みを継承し 持続可能な未来を創造するまち小田原」はどうか。
部会員	前回の事務局案は言葉が難しい印象だったため、できるだけ分かりやすく、なおかつ意思が伝わりやすいものがあると思う。 ①は言葉の流れに合わせればよいと思う。 ②は「生活」「暮らし」という言葉は良いが、③にどうつなげるかが難しいと感じた。 ③は「都市」という言葉に違和感はあるが、「共生」が入っていると「共に〇〇する」という意味があって良いため、「先進」よりは「環境共生都市」が良いと思う。また、SDGsは途切れなく続いていくものということ踏まえると、「持続可能な」はあったほうが良いかもしれない。
部会長	③には「共生」が入るほうが良いというご意見が出たが、オブザーバーの2名はご意見があるか。
委員 （オブザーバ	あまり長くないほうが良いため全体は、再3が良いのではないかと。ただ、内容に具体性を持たせるのであれば、「生活」「暮らし」の入

一)	った再2もよいと思う。
委員 (オブザーバー)	同意見で、長いと焦点がぼやけてしまうと思う。 ③のキーワードはなくても、「持続可能な」に「共生」の意味合いが入るので、いらぬのではないか。
部会長	③は、「都市」ではなく「～なまち」とするか、そもそも入れないか、どちらもよいと思う。
事務局	環境分野の計画であるため、あえて「環境」をキーワードとして入れた方が分かりやすいのではないかという意見も事務局内ではあった。入っていないと総合計画やSDGsの計画の目標のようにも見える懸念がある。 第2回審議会では、現行計画の「環境共生都市」は、大きな方向性として必ずしも変える必要はないという意見も出ているところである。
部会員	「先進」よりも「共生」のほうが良いという意見もあったので、③は「環境共生都市」が良いのではないかと思う。
部会長	それでは、「森里川海の恵みを継承する 持続可能な環境共生都市 小田原」を部会における第一候補の案としたい。 他の候補はここで削除してしまうのか。
事務局	第3回審議会にてご協議いただく際は、部会案をお示ししつつ、他の案も記載し、協議の参考にしていただけるような資料にしたいと考えている。

### ・基本目標の設定について（資料2）

資料2に基づいて説明し、以下のとおり協議を行った。

部会長	分野1脱炭素については、低炭素から脱炭素へ、地球温暖化対策から気候変動対策へ、といった動きに合わせた変更になっていると思う。それ以外については、計画の基礎となる部分であるため、あえて変えなければいけないというものではないと思う。 現行の計画では「〇〇なまちを目指します」という文言に統一されていたが、今回はそれとは変わっている。この点も含めて現行の各分野の目標とあえて変えた点があればご説明いただきたい。
事務局	「〇〇なまちを目指します」という文言からの変更については、何のために何をやる、という意味を表現するようにした。 分野2資源循環は、市の新たな総合計画でも取り入れた「サーキュラーエコノミー」の考え方を受けたものになっている。大量生産・大量消費・大量廃棄の社会的な構造をやめていこうということで、循環型社会はリサイクルに重きを置くが、リデュースの考え方も含んだサーキュラーエコノミーへ移行していきたいという意味を含めている。

	<p>分野3 自然共生は、小田原市の特徴である「森里川海」を前面に出した。</p> <p>分野4 生活環境保全是大きく変わっていない。</p>
部会長	<p>「〇〇なまちを目指します」の統一から、文章の前半で何を目指すか、後半でそれに対して何をするか、を表現しているとのことだった。前半部分を「〇〇を目指し」で統一しても良いかもしれない。何を指しているかがしっかりと伝われば良いと思う。</p>
部会員	<p>主旨を理解し、変えたほうが良いと思う点は特にない。</p> <p>あえて言うと、サーキュラーエコノミーはどうしても社会の静脈部分として語られることが多く、環境基本計画としてはそれでも問題ないが、むしろ先進国などでは産業分野など社会の動脈部分で進められるという認識である。産業政策も含めた全体としてサーキュラーエコノミーに取り組んでいくことが望ましい。</p>
部会長	<p>どの目標も環境分野だけで実現できるものではないと思われ、全体で達成していくものと認識している。</p> <p>今のご意見を踏まえると、分野2 資源循環の基本目標の文言は、「サーキュラーエコノミーの移行に向けて」を先にし、「省資源・資源循環を推進します」という意味合いを後半にしたほうが良いだろう。</p>
部会員	<p>現行の目標から変えるにあたり、特に問題はないと思う。</p> <p>横文字や聞き慣れない言葉は市民に理解されにくいいため、注釈などで用語を解説してほしい。</p> <p>1ページの「2030年に目指す姿」の最初に「各家庭に太陽光発電設備と蓄電池が設置されている」と記載があるが、2030年には実現不可能に思えるため、「望ましい」等にしたほうが良いのではないか。パッと見てできないと感じてしまうと、市民から見て説得力に欠けると思う。</p>
部会長	<p>内容を議論するためにも用語解説はあったほうが良い。</p> <p>「各家庭に太陽光発電設備と蓄電池が設置されている。」の表現については、「可能な限り」を加えるなどもあり得ると思う。</p>
事務局	<p>新しい総合計画の前段として作成した「2030 ロードマップ」では、2030年に設置可能な屋根の3分の1に設置することを記載しているため、それに合わせたような表現をしたい。書き方も「増えてきている」「増え始めている」といった表現もあり得る。</p>
部会長	<p>「2030年に目指す姿」部分については、最初に誰でもできることを持ってくるといった工夫をしてはどうか。例えば、脱炭素の分野では2点目の「二酸化炭素を排出しない電気を自ら作り使うことで電気の大切さが理解されている。」を先にしてはどうか。その他の分野も順番を検討されたい。</p>

委員 (オブザーバー)	昨今の再エネに関する取組では、再エネを○%以上にしないと罰金を課すというような報道も目にした。企業もEVに切り替える動きがあると聞く。国や企業の動きも見据え、目標の実現に向けて考慮していただきたい。
部会長	分野2資源循環については、文言の変更をしていただき、それ以外はこの方向で進めて、必要に応じて精査されたい。 分野や施策の分け方についてはいかがか。
事務局	第2回審議会では、分野横断的な施策を先に記載したほうが良いのではないかというご意見もあった。現時点では後にしている。
委員 (オブザーバー)	今の構成は分かりづらいと思う。
部会長	言葉が分かりづらいのではないか。
部会員	「基本施策」と「分野横断的施策」のどちらが基本的なものなのか。
事務局	参考資料1にもお示ししているように、「望ましい環境像」を達成するための方策、施策として大きく6つに分けており、その内容の整理のしかたをどうするかということになると思う。
部会長	基本施策が1～4あり、分野横断的施策もその中の基本施策が2つあるということになると思う。
部会員	分野横断的施策を先に持ってきたほうが分かりやすいと思う。 分野横断的な基本施策が2つ、分野別の基本施策が4つという整理で、先に全体をカバーする施策が来て、後から個別の施策という流れが分かりやすいのではないか。
事務局	ご意見を踏まえ、整理してより分かりやすい表現になるよう検討したい。
部会長	細かい点だが、3ページの「2030年に目指す姿」の3点目「無駄な二酸化炭素の～」の「無駄な」は不要である。 4ページの「取組方針」4行目にある「捕獲者」は一般的な用語か。正式な文言などがあればそれに変更されたい。
部会員	狩猟のことを指していると思うが、銃を使うものと罠とで免許が異なる。小田原では罠猟が多いため、それに適した表現を再考されたい。
部会長	6ページの「主な取組」右下の「生態系の維持保全（公害対策部分）」については、公害対策だけでも良いのではないか。
事務局	その部分は、5ページに記載の分野3自然共生の「主な取組」右上の「生態系の維持保全（生物部分）」と一体となった取組を2分野に分けているため、カッコ書きをつけている。
部会長	そうすると、内容を考慮し、5ページは「生態系の維持保全」のままで、6ページは「公害対策」でよいと思う。

	8ページの「2030年に目指す姿」の1点目の冒頭「多くの市民が、様々な場面で活用されている～」とあるが、どのような活用を意味しているのか。
事務局	環境学習や環境保全活動など、何かしら森里川海に関わる行動を意味している。分かりやすい表現を検討する。
部会員	「2030年に目指す姿」には、「主な取組」に位置付けている内容を取り入れてはどうか。
部会長	「2030年に目指す姿」だけを読んでもイメージしやすいような表現にしていただけたら良いと思う。

・成果指標の設定について（資料3）

資料3に基づいて説明し、以下のとおり協議を行った。

部会員	指標は実態を表すものにしないと意味がないが、そうすることは難しいと感じる。特に海の指標については、水揚げ量が適しているのか、小田原の特徴である定置網漁であれば良いか悩むところであり、これ以上にこちらの方が良いというものはなかなかない。ただ、「今年はこの種が獲れない」となっても、一概に海が汚くなったせいという訳ではないだろう。
部会長	定置網漁であっても小田原だけの取組で成果が変わるものではない。ごみの収集量であれば、収集した分だけきれいになったという直接的な取組ではある。環境面の取組の成果として見て取れるようなものが望ましい。
部会員	魚種も自然環境全体の影響を受けるため、把握してはどうか。トン数だけでなく、魚種の変化を分析すると、ごみに関係している、地球温暖化が関係している、等が分かるのではないかと。 現行の成果指標は、何を根拠にしている数値なのか分からないものもあったが、それが解消されていて良いと思う。
部会長	定置網漁であっても魚種を把握できるか確認されたい。
委員 (オブザーバー)	「耕作放棄地の解消面積」について、今ある耕作放棄地の面積が決まっているならいいと思うが、増えていくものだと思う。耕作放棄地自体ないほうが良いものであり、それは把握しないのか。
部会員	耕作放棄地の面積も把握されたい。解消できていたとしても、全体が増えてしまっていたら良くなっているとは言えないと思う。
部会長	総合計画審議会でも同じような議論があった。耕作放棄地の総面積と解消面積の両方を把握されたい。
委員 (オブザーバー)	指標の数だが、新たな計画は15ではなく16件ではないか。

事務局	その通りである。16に訂正する。
委員 (オブザーバー)	<p>環境政策を進めるための指標であるとするならば、耕作放棄地関係は農政課の事業、漁港の水揚げ量は自然の要因と、他の分野の取組の成果となっているが、これで良いのか。</p> <p>また、「美化清掃実施回数」は自治会の活動によるものであり、それを吸い上げる仕組みをしっかりとっていただきたい。</p> <p>「主要河川のBODの環境基準適合率」は達成できていることが前提になるので、成果として取り上げる意味があまりないのではないか。</p> <p>「小田原の森里川海に触れる体験をした都市住民の割合」はどのようにカウントするのか。</p>
部会長	公害対策関係は市民からの関心も高い分野であるため、絞らなくても良いように思う。
事務局	<p>「小田原の森里川海に触れる体験をした都市住民の割合」については、東京・横浜・川崎の住民を対象にした調査を実施して把握しており、総合計画の見直しに合わせて3年に1回程度行う予定である。</p> <p>また、環境基本計画は市全体の環境に関するものであり、農政課など他部署とも連携して進めていくものであるため、他部署においても環境の視点をもって取り組んでいただくという主旨の計画である。</p>
委員 (オブザーバー)	他課の事業の成果について報告する際は、それぞれの報告書等で異なる報告とならないように整合を図っていただきたい。
部会長	<p>現行の「ごみの総排出量」が新しく「家庭ごみにおける1人1日当たりの燃せるごみ排出量」になっているが、これまでは事業系も含まれた数値であったものが家庭系のみ、かつ、燃せるごみのみと絞った数値になっている。家庭から出るごみは燃せるごみだけではないため、全体も引き続き把握した方が良いのではないか。</p>
事務局	<p>一般廃棄物処理基本計画の目標設定と連動した数値となっており、事業系ごみはコロナ禍などの事業活動の影響も大きいことから、家庭系ごみのみになっている。</p> <p>大型ごみの持ち込みの場合については家庭系と事業系とで分けられるか確認が必要だが、それ以外は家庭ごみとして内容を把握することができるので、検討したい。</p>
部会員	<p>ごみの総排出量は焼却量・埋立量・資源化量とすべてが含まれているとのことだが、紙などの資源ごみはあまり出なくなっており、指標にするのが難しいため、燃せるごみと燃せないごみを合算し、資源ごみは別とした方が良いのではないか。</p>
部会長	資源化できないものを減らしていくという考え方による指標は良いと思う。

部会員	資源ごみなどは扱う業者が違うと思うが、量を把握することが可能か。
事務局	ごみの種類によって取り扱いが異なる。自治会が設置しているごみステーションは、市と事業者1者が収集している。これは燃せるごみだけでなく不燃ごみも含まれる。 いずれにしても、収集したごみは計量を行うため、量を把握することは可能である。
部会長	意見を踏まえて再考していただき、燃せるごみだけに絞る場合もその理由を明示されたい。 現行の「有害鳥獣苦情件数」を「農作物の鳥獣被害額」にすることは、把握の対象を農業者だけにすることか。そうなると農業者以外の苦情や被害は把握できなくなるということか。
事務局	現行の「有害鳥獣苦情件数」は生活被害に対する苦情をカウントしており、四半期ごとに環境保護課が神奈川県に報告しているもので、指標でなくなることで把握されなくなるということはない。 今回は、有害鳥獣による影響がどれほどあったかという視点でこの指標を取り上げた。 なお、「生活環境に対する苦情件数」は有害鳥獣に関する苦情は含まれていない。
部会員	被害が発生した場所も併せて把握してはどうか。市民は自分の住む地域で被害が増えているのか減っているのかが気になると思う。大きく変化した際に、そういったことが把握できていると良いと思う。
部会長	先ほどのようなごみの指標も、有害鳥獣の指標も、現行の数値より絞り込むことになり、見えなくなる部分が出てくるため、そのままで良いのかはよく検討されたい。どのような扱いになるかは記載していただきたい。 分野横断的な指標の3つについても、取組数が何の取組なのか、対象を明記していただきたい。

・目次案について（資料4）

資料4に基づいて説明し、以下のとおり協議を行った。

部会長	先ほども話題に出たが、資料編に用語集が入ることになっているので、解説など分かりやすく記載されたい。
-----	---------------------------------------------------

その他

事務局	参考資料2「自治会アンケート用紙」については、地球温暖化対策等について、総合計画策定のアンケートでは拾いきれない内容について自治会を通して配布する1,250人に対して実施するものである。第
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>2回審議会を実施することを報告させていただき、その後、地球温暖化対策推進計画・エネルギー計画策定検討部会で設問の内容等を協議いただき、このような形で現在実施中である。</p> <p>内容は、国が実施したアンケートに沿って、国全体と本市とを比べられるような設問や、国が脱炭素社会の実現に向けて進めている「ゼロカーボンアクション 30」の取組を現時点で実施している人がどれくらいいるか把握する設問などである。</p> <p>自治会には、できるだけ若者の意見も取り入れられるよう配布にご留意いただきたいとお伝えしている。</p> <p>また、環境部が配信しているメールニュースの読者約 3,800 件に対しても合わせて Web アンケートを実施している。</p> <p>結果はそれぞれの計画に反映させていただく。</p>
事務局	<p>今後の予定について、次回の部会は 2 月頃の開催を予定しているため、日程調整をさせていただく。</p> <p>第 3 回審議会は 3 月を予定している。</p> <p>いずれも、計画を素案の形にし、ご協議いただきたいと思っているため、よろしくお願ひしたい。</p>

以上